

第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物
The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

サキシマカナヘビ

Takydromus dorsalis Stejneger, 1904

竹中践（東海大学）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会 爬虫類・両生類分科会



令和8（2026）年3月



特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：竹中践，2026. サキシマカナヘビ. 環境省（編）第5次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 172-176.

Citation: Takenaka, S., 2026. *Takydromus dorsalis* Stejneger, 1904. In: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 172-176.

サキシマカナヘビ

Takydromus dorsalis Stejneger, 1904

カテゴリー判定結果		絶滅危惧Ⅱ類 (VU)		B2ab D2	
基準 A: —	基準 B: VU	基準 C: —	基準 D: VU	基準 E: —	
B2. 生息地面積が 2000 km²未満であると推定されるほか、次の兆候が見られる。 a) 生息地が過度に分断されているか、10 以下の地点に限定されている。 【過度に分断】 生息環境は、疎林と湿地が混在する場所で、そのような環境は農地開発によって造成されてきた。残存する生息地においても、草地化の進行や森林の遷移によって本種が見られなくなっており、一部の生息地を除いて生息環境の点在化が進んでいる。 【地点数】10 地点以下 b) 出現範囲、生息地面積、生息地の質、生息地点数、成熟個体数のいずれかに継続的な減少が推定・予測される。 【判断理由】 国内希少野生動植物種への指定により、採集による減少要因はなくなったと考えられるが、生息地におけるそれぞれの好適ハビタットの範囲は、農地造成等の影響により継続的に減少している。また、石垣島、黒島、小浜島では外来種为天敵が増加している。 D2. 生息地面積あるいは分布地点が極めて限定されている。 【判断理由】 本種は八重山諸島の 4 島のみに分布し、その 4 島における現状の好適な生息環境の範囲は合計で 9.3 km²以下と推定される。島嶼では、本種の脅威として想定される生息阻害要因（外来種、病原体、大規模な開発や自然災害等による生息環境の改変等）の影響が、比較的速やかに全体に及ぶ可能性がある。					
評価分科会： 爬虫類・両生類分科会					

概要

八重山諸島に分布する日本固有種。カナヘビ属の中では大型で、細長い体型と長い尾をもち、体色はあざやかな緑色。おもに成体は樹上の枝葉上で行動し、幼体は草の上で行動する。昼行性で日なたで活動する。分布地の島では開発による低地林の減少が見られ、とくに西表島では近年急速に開発が進んでいる。黒島では開発により樹林が縮小した上に移入天敵のインドクジャクの影響により減少した可能性があり、近年本種は確認されなくなっている。

基礎情報

【形態】

全長 250～320 mm、頭胴長 60～70 mm。背面、側面は鮮やかな緑色で眼の前後に黒条がある。腹面は淡緑黄色。雌雄同色。アオカナヘビなど他のカナヘビ属の種は背面の鱗が大きく角形であるのに対して、背面の鱗が小さく円形で背面は滑らかである。咽頭板は 4 対。鼠径孔は 2～3 対。

【生活史】

春から夏にかけて複数回、1～2 卵を産む。成熟年齢は不明。成体が樹上の高い枝や葉上で行動するのに対して、幼体は草むらや低木で行動することが多い。黒島では樹林が発達していないためか成体も草むらで生活する。

【生息環境】

草地および明るい樹林に生息する。樹上性の習性が強く、低木の樹冠と草むらを広く利用して行動する。

生息環境区分：	【陸域_低標高地】森林，草地 【陸域_平地部】森林，草地，湿地・湿原，小河川
国土地域区分：	(2) 里地里山・田園地域，(4) 河川・湿地地域，(7) 島嶼地域

【分布域】

八重山諸島の石垣島、西表島、黒島、小浜島に分布。黒島と小浜島ではきわめて個体数が減少しているが、近年の確認報告はある。

現在の生息状況

【分布域の現況】

石垣島と西表島では低地の開発により、平地と山地・丘陵地の林縁部の生息地で分布域が縮小してきている。黒島と小浜島では牧草地と耕作地の開発により、島の一部の樹林と隣接する草地に生息分布が局限している状態であったが、その生息地においても個体の確認がきわめて少ない状況にある。

【生息地の現況】

西表島では近年、丘陵周辺の農地開発や道路建設によって急激な生息環境の消失があった。また、観光開発も進んでおり、低地および丘陵周辺の生息環境は悪化している。黒島では島中央部の牧草地開発により生息地の規模が脆弱になっており、インドクジャクの増加によっても安全に生活できる生息地がなくなっている可能性がある。石垣島では開発による生息地の縮小後、その状況はよく分かっていない。

【個体数の現況】

具体的な個体数密度の推定は行われていない。しかし、生息環境が維持されている地域の縮小によって、全体の個体数が急激に減少していることは明らかである。

存続を脅かす要因

繁殖に適した湿潤な地表環境、幼体が生息する草地、成体が生息する明るい樹林環境がそろっていることが必要と考えられ、開発・造成によって好適な生息環境が失われてきている。もともとの生息環境としての明るい樹林周辺の藪と草むらの入り交じった地域の面積の少なさから開発の影響は大きい。黒島のように移入天敵の影響も考えられ、他の分布地域でもその要因への警戒が必要であると考えられる。

要因の区分：	(過去)	森林伐採，湿地開発，草地開発，捕食（外来種による），違法採集，分布・産地局限
	(現在)	森林伐採，湿地開発，草地開発，捕食（外来種による），発電施設建設，違法採集，分布・産地局限

特記事項

背鱗が細かいことなどの形態的特徴から、かつてはカナヘビ属とは別属とされていた。分子系統学的分析から本種がカナヘビ属に含められることが妥当であることが確かめられている。石垣市自然環境保全条例の保全種、竹富町自然環境保護条例の希少野生動植物種に指定されている。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	サキシマカナヘビ	<i>Takydromus dorsalis</i>	VU
第4次 2019:	サキシマカナヘビ	<i>Takydromus dorsalis</i>	VU
第4次 2018:	サキシマカナヘビ	<i>Takydromus dorsalis</i>	VU
第4次 2017:	サキシマカナヘビ	<i>Takydromus dorsalis</i>	VU
第4次 2015:	サキシマカナヘビ	<i>Takydromus dorsalis</i>	VU
第4次:	サキシマカナヘビ	<i>Takydromus dorsalis</i>	VU
第3次:	サキシマカナヘビ	<i>Takydromus dorsalis</i>	VU
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和6年度末時点）

【沖縄県】絶滅のおそれのある地域個体群(LP)(小浜島、黒島)

保護に係る法令指定状況（令和7年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 峯光一・石田憲・福原亮史, 2016. 八重山諸島の竹富町黒島におけるサキシマカナヘビの生息確認報告. AKAMATA, 26: 35-37.
- 日本爬虫両棲類学会 (編), 2021. 新日本両生爬虫類図鑑, サンライズ出版, 彦根. 232pp.
- Ota, H., M. Honda, S-L. Chen, T. Hikida, S. Panha, H-S. Oh, and M. Matsui, 2002. Phylogenetic relationships, taxonomy, character evolution and biogeography of the lacertid lizards of the genus *Takydromus* (Reptilia: Squamata): a molecular perspective. Biol. J. Linn. Soc., 76: 493-509.
- 千石正一・足田努・松井正文・仲谷一宏 (編), 1996. 日本動物大百科 5 両生類・爬虫類・軟骨魚類, 平凡社, 東京. 189 pp.
- Takenaka, S., 1989. Reproductive ecology of Japanese lacertid lizards. In: M. Matsui, T. Hikida and R. Goris (eds.), Current Herpetology in East Asia, pp. 364-369. Herpetological Society of Japan, Kyoto.
- 竹中踐・皆藤琢磨・戸田守, 2015. 小浜島におけるサキシマカナヘビの標本採集およびその他の爬虫類・両生類の記録. AKAMATA, 25:36-40.
- 当山正直・太田英利, 1990. 西表島崎山半島における両生・爬虫類の生態的分布. 南西諸島における野生生物の種の保存に不可欠な諸条件に関する研究. 平成元年度西表島崎山半島地域調査報告書, pp. 167-172, 環境省自然保護局, 東京.
- 当山正直・太田英利, 1991. 琉球列島の両生・爬虫類. 平成 2 年度南西諸島における野生生物の種の保存に不可欠な諸条件に関する研究報告書, pp. 233-254, 環境省自然保護局, 東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Takydromus dorsalis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Takydromus dorsalis* is listed as VU under criteria B2ab D2.

B2. Area of occupancy estimated to be less than 2,000 km², and estimate indicating at least two of a-c:

- a. Severely fragmented or known to exist at ten or fewer locations.
- b. Continuing decline, observed, inferred or projected, in any of the following:
 - (i) extent of occurrence
 - (ii) area of occupancy
 - (iii) area, extent and/or quality of habitat
 - (iv) number of locations or subpopulations
 - (v) number of mature individuals

D2. Population with a very restricted area of occupancy (typically less than 20 km²) or number of locations (typically five or fewer) such that it is prone to the effects of human activities or stochastic events within a very short time period in an uncertain future, and is thus capable of becoming Critically Endangered or even Extinct in a very short time period.

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Low-altitude area】 Forest, Grassland 【Terrestrial/Freshwater area_Plain】 Forest, Grassland, Wetland, Small river
Threat types:	Logging and wood harvesting, Wetland development, Grassland development, Predation (by alien species), Power plant construction, Illegal harvesting of biological resources, Limited distribution
Law designation status for conservation	Nationally rare species of wild fauna and flora.



執筆者:	竹中踐（東海大学）
Author:	Sen Takenaka

公表年月：2026 年 3 月